

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	神学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導(院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導(専院)
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. カリキュラム・ポリシーと関連してシラバスが作成されているか検証する制度を構築する。	→既存のカリキュラム研究委員会(学部)による検証および教授会に対する報告(2013年度までに)。	C	B	B	B	A
2. 上記目標を実現するために、FD活動を充実させる。	→学部独自の課題に対応するFD研修会の開催(年2回)。	B	B	B	A	A
3. 学生による授業評価をFD活動にフィードバックさせる。	→学生による授業評価のFD研修会への反映。	C	C	C	B	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

## 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 授業担当教員へのシラバス作成依頼に際して、カリキュラム・マップを参考にし、その要素を科目の「到達目標」へ反映するよう招請している。シラバス公開の前段階において、副学部長(教務担当)及び事務担当を中心にその適切性を点検している。それらの結果をFD委員会(学部)で話し合い、カリキュラム研究委員会(学部)、教授会へ報告し、授業の改善を促している。また新年度を前に年1回、非常勤講師を対象とするFD研修会(学部)を開催し、シラバスの記入に関して学部の取り組みを説明するとともに課題の共有を図っている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か FD委員会(学部)において、シラバスの課題を共有し、またその結果を教授会等に報告することによって、互いに問題を共有し、解決していく体制を構築することが出来た。この様な検証体制を継続していくことが、引き続きの課題である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か FD委員会(学部)における検証結果を、FD研修会(学部)を通じて専任教員・非常勤講師に周知し、改善へ向けての課題共有を継続して行っていく。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか FD研修会(学部)は専任(年2回)／非常勤教員(年1回)ごとに開催し、それぞれが直面するFD上の課題について学び、話し合っている。2010年度にディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを策定してからは、カリキュラムマップ、履修モデルをも含めて、FD研修会(学部)で取り上げ、その理解と活用について話し合っている。2013年度4年次生から「卒業論文」を取り入れたことにより、その指導方法、評価基準や評価の手順等についても話し合いを重ねている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か FD研修会(学部)を通して、互いの課題を共有しあうことができ、神学部全体の教育水準を保つことができている。また、シラバスの記入方法や授業運営についても、具体的な事例をもって話し合うことにより、相互に良い刺激を受けることができている。さらに個別ケースに応じた教育の方法について、また修学に困難を抱える学生の指導についても学びを深めていく。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2013年度4年次生から取り入れた「卒業論文」における指導上の問題点や課題、あるいは学生が抱えている修学上の問題についての理解と学びを深めていく。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 授業評価について全学統一の方法・項目が精査され、2012年度から毎年度、マークシート及びWEB方式にて実施している。評価結果によって浮き彫りになった課題点について、副学部長(教務担当)が個別の評価・対応を検討してきたが、2013年度からはFD委員会(学部)で話し合い、カリキュラム研究委員会(学部)、教授会に報告の上、懇談している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か FD委員会(学部)において学生の学修姿勢に関する特徴や授業運営の問題を共有し、また改善施策について具体的かつ組織的に話し合うことができている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か FD委員会(学部)の活動を充実し、有効に機能させるために、そこで話し合われた内容をFD研修会(学部)、カリキュラム研究委員会(学部)、教授会の議論に反映させ、実質化させる仕組みを構築する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
備考			☆